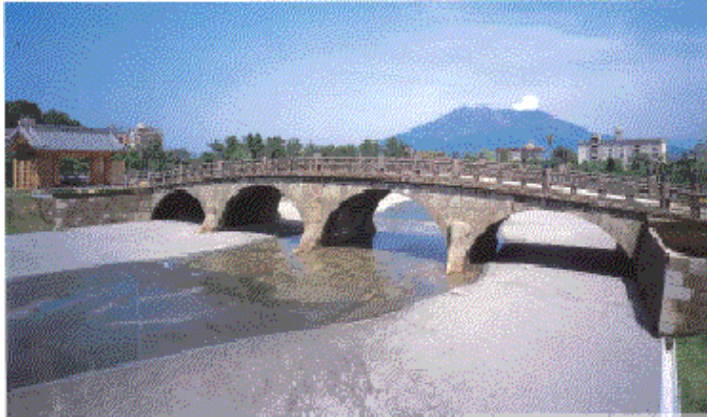


西田橋

【所在地】鹿児島市浜町

【種別】県指定有形文化財（建造物）

【指定年月日】昭和 28 年 9 月 7 日



西田橋は、甲突川にかけられていた五大石橋の一つで、弘化3（1846）年9月に肥後の石工岩永三五郎の手により施工されたアーチ式石橋であったが、平成5年8月6日市街地の約1万2千戸が浸水した集中豪雨による洪水の発生を契機に、平成12年に鹿児島市祇園之洲の石橋公園内に移設されている。

橋の長さは49.5m、通行部の幅は6.2m、高さ（橋脚袴石上外角から耳石頂部まで）5.6m、アーチは4連で、側面下部が広がり、重量感と安定感がある。橋上の両側には和様（日本の伝統的な様式）の高欄が、柱には青銅の擬宝珠がつけられていた。

この橋は、かつては城下町鹿児島の玄関口にあたり、参勤交代の通路であったため、他の石橋に比して堅固優美で、橋の渡り口には御門が付けられていた。

〈参考〉

●五大石橋 鹿児島市を流れる甲突川に、上流から玉江橋、新上橋、西田橋、高麗橋、武之橋の順に石橋が架けられていた。武之橋は五連、他は4連のアーチ橋である。

●岩永三五郎 寛政4（1792）年～嘉永4（1851）年ごろの肥後（熊本）の石工で、天保11（1840）年ごろから嘉永2（1849）年まで10年間鹿児島藩に滞在し、石橋を含む土木工事全般の技術者として活躍した。肥後に帰国後59歳で死んだ。墓は熊本県八代郡鏡町字芝口にある。